特集

左馬神社

～さばじんじゃ～

～境川流域に密集するサバ神社について考える～

はじめに

南大和病院のすぐ側の雑木林の中に※1『左馬神社』という古びた神社があります。

この“サバ”という名に珍しさを感じ、調べてみると、大和市、藤沢市、横浜市の瀬谷区・泉区にに「左馬」「左婆」「左波」「鯖」と“サバ”という名付け十一社、引地川に一社、計十二社密集していることが知られています。

祭神は鎌倉幕府を開いた源頼朝とNHK大河ドラマの主役となる源義経の父※2源義朝であり、この義朝を祭神としている神社は全国的に観ても珍しいのだといわれています。

更に、近年までそのサバ神社を七社巡る「七サバ参り」という信仰もあったそうです。

今回、この珍しい神社について、サバの名称「左馬」「鯖」、祭神の義朝、七サバ参り、そして、なぜ「サバ」なのか調べようと思います。

※1　左馬神社・・・寛文十年（一六七〇）十二月建立。

※2　源義朝（一一二三～六〇）平安末期の武将。詳しくは「1左馬と源義朝」参照。

1　左馬と源義朝

源義朝は平安時代末期に起こった※3保元の乱での活躍で※4左馬頭」となりました。やがて平清盛の出世に不満を抱き※5平治の乱を起こし、敗れます。

この時生き残った従者の平賀四郎、鎌田正清、金王丸の三名と※6尾張国知多郡の鎌田正清の義理の父である長田忠致を頼りましたが、忠致の裏切りにあい、金王丸を除いて殺されてしまいました。生き残った金王丸はこの主人を弔うため出家し、土佐坊昌俊となりました。

この金王丸（土佐坊昌俊）の兄というのが渋谷重国で、いまの川崎から綾瀬付近、現在の高座渋谷一帯を治めていたといわれています。もちろん、その領域は、サバ神社の建てられた場所も含まれており、この地域は渋谷氏が治めていたことにより、義朝を弔う土壌があったと思われます。

更に、極めつけに江戸時代初頭に領主としてこの地域の住民の仇とも言えるあの長田忠致の末裔である長田忠勝、白政兄弟が治めることになります。

恐らく、この地域の住民に反感情があったものと思われます。それにより、義朝の役職の「左馬」を用いて「左馬神社」と名付けたのではないでしょうか。そして源年朝を祀ったのではないかと思われます。

ただ「左馬」という名称を用いる前のサバ神社」は大半「鯖」と名付けられた社名が多かったようです。

この「鯖」は一体どういうことでしょうか。

※3保元の乱・・・保元元年（一一五六）後白河天皇が藤原通憲（信西）を参謀とし平清盛・源義朝を使って崇徳上皇を破った戦い。

※4左馬頭・・・平安時代の律令制で諸国の牧場の管理していた役職の長。

※5平治の乱・・・平時元年（一一五九）後白河上皇のもと権力を握った信西を藤原信頼と源義朝が殺し、その後平清盛が両者を滅ぼした戦い。

※6尾張国・・・現在の愛知県。

2　「鯖」の字について

病院の裏手の「左馬神社」もかつては「鯖明神」でありました。境内の古い石燈に「鯖明神社」と刻まれており※7新編相模国風土記稿』においてこの左馬神社はもちろんのこと、大半は「鯖明神社」と記録されています。

この地域で魚の鯖が多く水揚げされるようになったのは昭和の時代に入ってからだと聞いています。

マユツバと思いますが、この付近の伝承に「大雨による洪水が発生した後、水が引いて、木に鯖がたくさん引っ掛かていた」から祀ったといわれています。

一説には、初穂の魚を神仏に備える全国的な風習に鯖を用いていたからだともいわれております。

サバ神社とは異なる鯖稲荷を紹介してみます。

この稲荷は、東京・日比谷神社で別名「鯖稲荷」であり、ご利益は虫歯封じといわれております。

虫歯封じとサバにどのような繋がりがあるのかけんとうもつきません。

江戸時代の※8本草書」というわゆる民間療法の書籍に鯖の“薬効”が書かれています。それによると整腸作用があるそうです。はたして効果はあるのでしょうか、謎です。

ともかく「鯖」の字が恐らく痛みに対して何らかの効果があったようです。しかしなぜ「鯖」なのか？「あて字」という説には持って行きたくはなかったのですが結局のところ何も見出せませんでした。

では「サバ」とは一体何なのでしょうか。

※7新編相模国風土記稿・・・天保十二年（一八四一）に成立した地誌。林述斎が編集。

※8本草学・・・本草とは、薬になる草を意味しており、古代よりそのような研究のため、書籍が作られていた。初めて何かを食べて効果を見出した人ってすごいと思う。

3　では「サバ」とは

魚の「サバ」の説はともかく、このサバ神社の「サバ」について様々な考察が行なわれていました。

まず、境川が神聖な信仰の境界であったという説です。

猟師言葉に「サバワケ」という言葉があります。これは「獲物を均等に分ける」という意味で、この「サバ」は境をつける意味合いであったそうで、東側は※9庚申信仰、西は※10道祖神信仰の境界とし、両岸に沿って社を建てたとする説です。

この説は境川に関してはこの説は通用しますが、その他河川にはあてはまりません。

もう一つは、農耕との関係から、「サワ」つまり沢もしくは田の神であったのではないかという説です。

東南アジアの言語では水田のことを「サワ」「サバ」と呼んでおり、水に関連するのは確かなようです。歩いて回ってみると、大体のサバ神社は皮を見下ろす高台に位置し、その下に水田や現在の住宅地が拡がっています。

沢の神だけで見てみますと、高台に位置し、神社が河川を見下ろすという配置は、水害を恐れていたことに繋がるかもしれません。それに加えて、サバ神社十二社中、六社に「稲荷社」、二社に「宇迦之魂神」が祀られ、双方とも農耕神であり、田の神です。

恐らく、沢の神と田の神として、サバの神は存在していたのではないかという結論に到りました。

※9庚申信仰・・・庚申の日に帝釈天・青面金剛・猿田彦などを祭る。見ざる・聴かざる・言わざるの「三猿」で有名。

※10道祖神信仰・・・民間信仰のひとつ。道端に祭られ、五穀豊穣・子孫繁栄を祈った。男女の神様が仲睦まじく寄り添う姿がかわいい。